

三宅島の火山活動解説資料（平成 24 年 4 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

やや多量の火山ガス放出が続いています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

平成 20 年 3 月 31 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙、火山ガスなど表面現象の状況（図 1、図 2－①②③④、表 1）

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上 100～300m で経過しました。

9 日及び 19 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたりそれぞれ 700 トン、500 トン（前月 3 月 15 日及び 22 日、それぞれ 900 トン、600 トン）で、やや多量の火山ガス放出が続いています。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

・ 火口及び山体内の熱の状況（図 4）

全磁力連続観測¹⁾では、火山体内部の熱の状況に大きな変化は見られませんでした。

1) 山頂火口の北側（雄山北東、三の宮）で全磁力値が増加（図 4 で上向きの変化）、南側（雄山北東、三の宮以外の観測点）で減少（図 4 で下向きの変化）の変化がみられた場合は、火山体内部で温度上昇があったと考えられます。

・ 地震や微動の発生状況（図 2－⑤⑥⑦、図 5※、表 1）

火山性地震は少ない状態が続いています。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 2－⑧、図 3－①～④※）

GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら現在も継続しています。

島の南北を挟む基線では、2006 年頃から深部の膨張を示す伸びの傾向がみられています。



図 1 三宅島 山頂火口からの噴煙の状況
（4 月 24 日、小手倉遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 5 月分）は平成 24 年 6 月 8 日に発表する予定です。

※この記号の資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

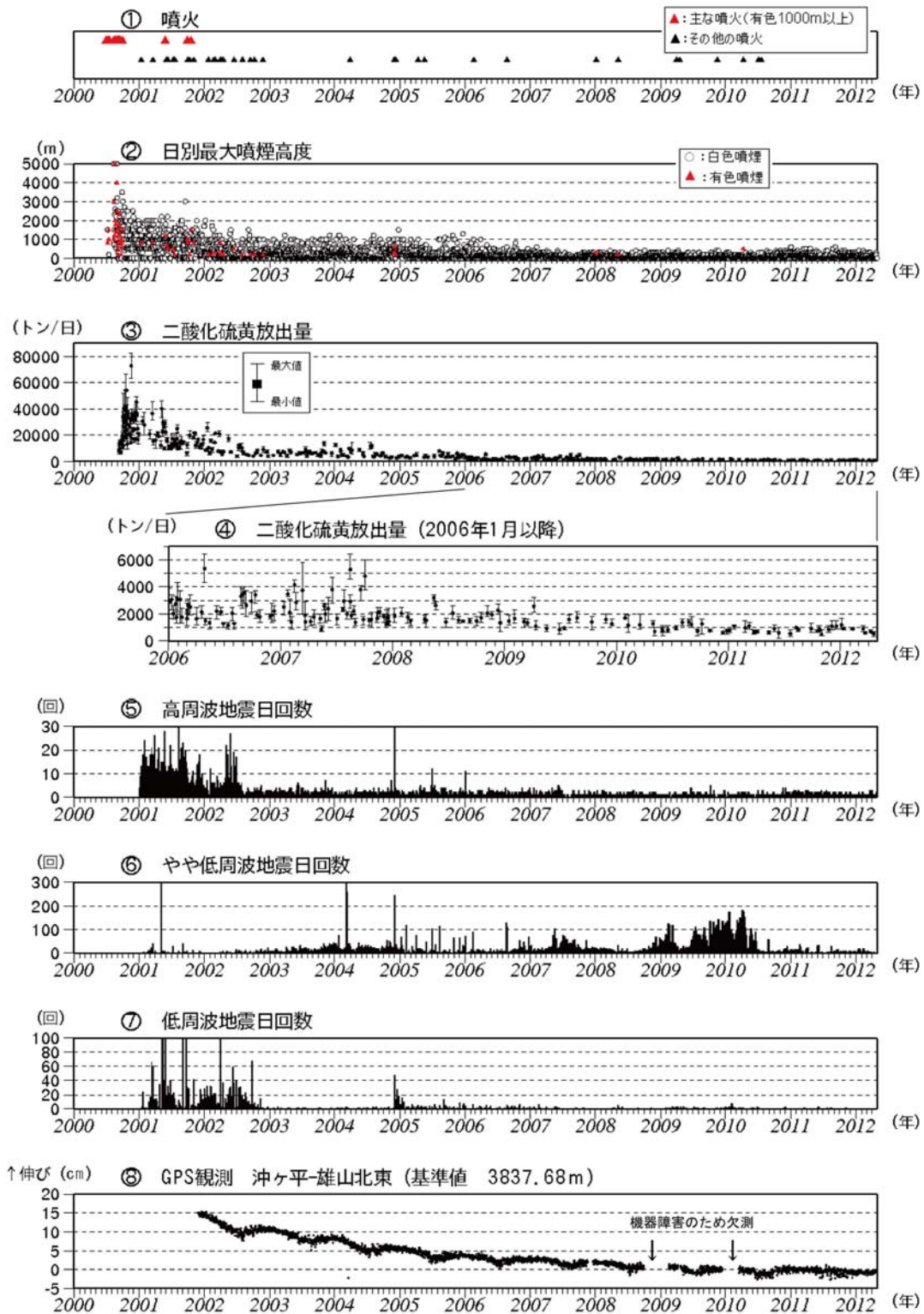


図2 三宅島 最近の火山活動の経過図（2000年1月～2012年4月）

- ・③は、2005年11月まで、海上保安庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、東京消防庁及び警視庁の協力を得て作成しています。
- ・⑤、⑥及び⑦は、地震の種類別（図6参照）に計数を開始した2001年1月1日からのデータを掲載しています。
- ・⑧の2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。この基線は図7（観測点配置図）の②に対応します。グラフの空白部分は欠測を示します。

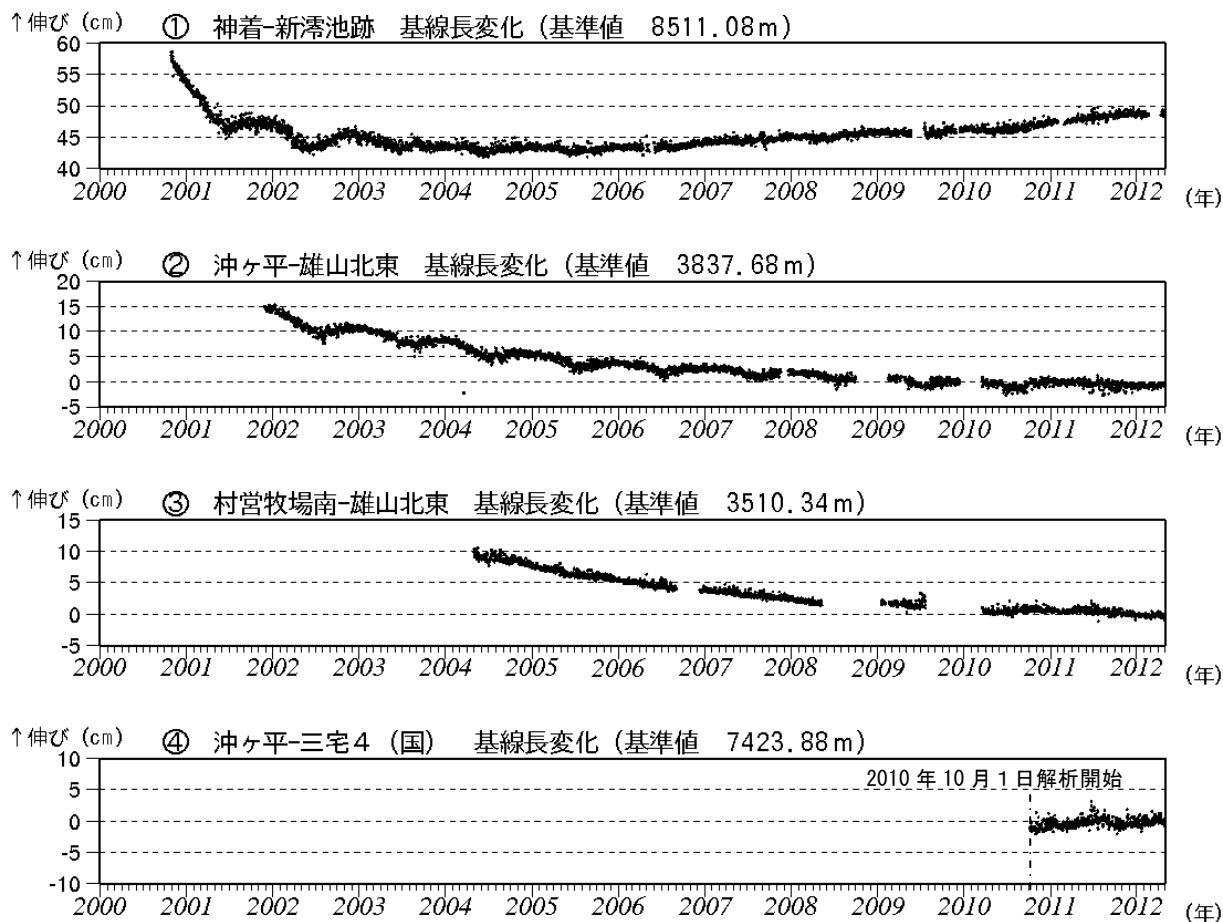


図3 三宅島 GPS 連続観測結果（2000年1月～2012年4月）（国）：国土地理院
 基線①～④※は図7（観測点配置図）の①～④にそれぞれ対応します。
 グラフの空白部分は欠測を示します。
 2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

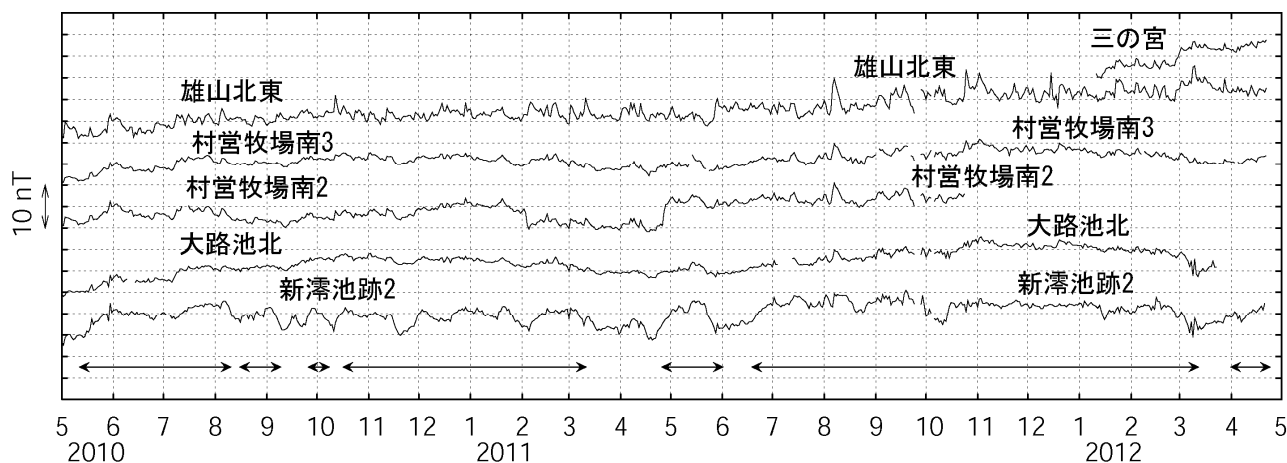


図4 三宅島 全磁力連続観測による全磁力値の変化（2010年5月～2012年4月）
 火山活動によるとみられる有意な変化は観測されませんでした。
 ←→で示した期間の全磁力値は三宅島周辺の海流の影響を受けていると推測されます。
 大路池北は観測環境の悪化により、3月下旬から欠測しています。
 nT（ナノテスラ）は磁場の強さを表す単位です。

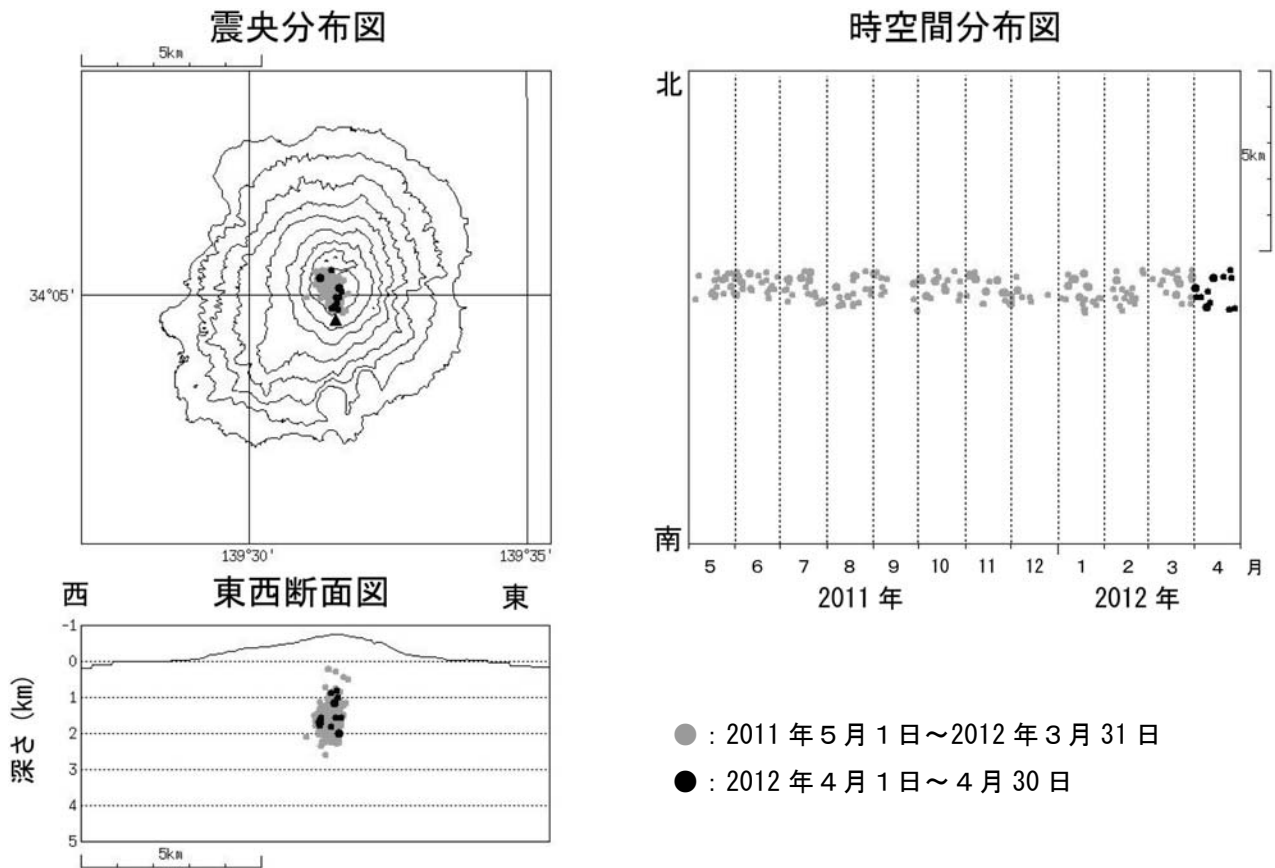


図 5※ 三宅島 震源分布図 (2011 年 5 月 1 日~2012 年 4 月 30 日)

表 1 三宅島 2012 年 4 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震回数2)			微動回数	噴煙の状況3)		備 考
		高周波地震	やや低周波地震	低周波地震		日最高(m)	噴煙量	
1日	0	1	2	0	0	—	—	
2日	0	1	2	0	0	100	1	
3日	0	0	2	0	0	50	1	
4日	0	0	1	0	0	—	—	
5日	0	1	1	0	0	—	—	
6日	0	0	2	0	0	100	1	
7日	0	0	1	0	0	—	—	
8日	0	1	2	0	0	200	1	
9日	0	1	2	0	0	×	×	二酸化硫黄放出量 平均700トン/日
10日	0	0	3	0	0	50	1	
11日	0	0	1	0	0	50	1	
12日	0	0	0	0	0	100	1	
13日	0	1	2	0	0	50	1	
14日	0	0	0	0	0	×	×	
15日	0	0	2	0	0	×	×	
16日	0	0	1	0	0	200	1	
17日	0	0	1	0	0	200	×	
18日	0	0	1	0	0	100	1	
19日	0	1	2	0	0	×	×	二酸化硫黄放出量 平均500トン/日
20日	0	0	0	0	0	×	×	
21日	0	0	0	0	0	×	×	
22日	0	0	1	0	0	100	1	
23日	0	0	1	0	0	×	×	
24日	0	0	1	0	0	300	1	
25日	0	2	0	0	0	200	1	
26日	0	0	1	0	0	×	×	
27日	0	0	1	0	0	×	×	
28日	0	0	1	0	0	×	×	
29日	0	0	1	0	0	×	×	
30日	0	0	0	0	0	×	×	
合計	0	9	35	0	0			

2) 火山性地震の計数基準は雄山北東で最大振幅 $12\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 時間 3 秒以内です。
火山性地震の種類は図 6 のとおりです。

3) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09 時・15 時)の日最大値です。噴煙量は以下の 7 階級で観測しています。
1: 極めて少量 2: 少量 3: 中量 4: やや多量 5: 多量 6: 極めて多量
7: 噴煙量 6 以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの
—: 噴煙なし ×: 不明

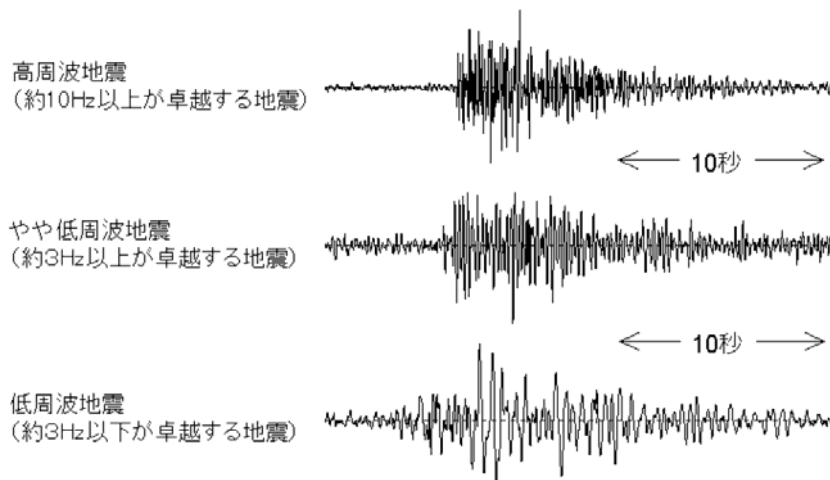


図 6 三宅島 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

